

2025年10月13日

ECC 学園高等学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 学園高等学校関係者評価委員会は、2025年9月20日に「2024年度自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価委員会を実施しましたので、報告いたします。

学校法人 山口学園
ECC 学園高等学校
学校関係者評価委員会

開催日時:2025年9月20日(土)

時間:11:00~13:00

場所:ECC 学園高等学校 大阪梅田キャンパス 504 教室

参加者:

- 教育関係者1名 幸 美砂子(大津市教育支援センター)
- 保護者2名 西谷 幸二 中田 郁充
- 卒業生2名 筒井 優誠 長嶺 侑璃
- 学校関係者:5名 学校長 下澤 辰次
教頭 西田雄哉
教務主幹 箕倉朋美
大阪学習センター長 梶野 茂
生徒募集責任者 小原 雅弘

欠席者:

- 地域(高島市)関係者1名 北村 一博(興亜繊維工業(株))

1. 開会の挨拶

(下澤) 本年度から梅田キャンパスが開校しスクーリング会場として運営、ゴルフ部全国大会優勝など生徒の活躍もある。ご指摘よろしくお願ひしますと欠席の北村委員の挨拶を代読

2. 2024年度学校自己評価

(西田) 2024(令和6)年度自己評価報告書に基づき、概要説明および課題点の共有、各委員様からの意見・質疑応答の形式で議事を進行した。

教育活動

- 学力の向上

(中田) レポートの変化については特になし。成績にも大きな変化はない。

(筒井) 筆記がどの程度増えたかはわからないが、(在籍時)レポートは簡単だった。

(西谷) 少し難しくなった。教科書に沿っているかもしれないが、勉強が困難な生徒にとってはしんどいかもしれないと指摘。

(西田) 2026年度からはガイドラインに則した更なる変更を予定しているとの説明

(中田) スクーリング時間数が増えたことに対し、座学が苦手な生徒にとっては「しんどい」「厳しい」「耐えるだけ」という意見。

(長嶺) 座学は難しいと思ったことはなかったが長いとは感じていた。

(筒井) 座学以外に体育で体を動かすことや、理科の実験的な授業(煮干しの解体等)は楽しめた。

(西田) 長時間の座学がしんどい生徒も多いことを踏まえ、内容の改善に取り組む必要があるが、スクーリングの時間数が決まっているため工夫していくとの見解。

(筒井) 試験はレポートから出題されるため困ることはなかったが「しんどい、もんどくさいものだった」と意見。

(箕倉) 不登校などから高校入学後に初めて試験を受ける生徒もいるためハードルは高いが、必要なので実施していかなければならないものではあると説明。

- 質の確保

(西谷) 大阪でスクーリングができるようになったのは良かった。

(幸) 学習指導要領に明記されている内容を参考に、例えば50分をユニット化するなど、小中学校のように柔軟に対応してはどうかという提案。

(箕倉) 生徒の状況に応じて内容を考えるが、特に『数学』が一番苦勞しており、九九があやしい生徒もいるため、レポートの解説授業を行うなどの対応をしていると説明。

生徒指導

- 生活指導

(西谷) 課題提出を忘れてしまう生徒が多いため、未提出のものが(保護者)わかるシステムや、折り返しの連絡方法、自動送信・返信システムがあればありがたいという要望。

(中田) 単位取得に関わる重要な日程は、保護者にとって安心材料として知っておきたい、保護者会が増えたら嬉しいという意見。

(箕倉) 保護者会の頻度と情報発信に関して調整を行っていることを説明。

- 進路指導

(長嶺) (学園内)専門学校見学は良かったと評価。専門学校分野(学園外含めて)を増やしても良いのではという提案。

(幸) 自立と社会参加が難しい生徒もいるため、職場体験などで外部との連携をしていくと良いのではという意見。

(中田) 「自分には進路があると思っていなかった」という生徒に対し、先生から進路があることを伝えてもらえると良いのではないかと意見。

(箕倉) 進路を考える機会を増やしていく。

学校運営

- 渉外活動について

(長嶺) 小中で不登校だった生徒は通信制の存在自体を知らないことが多いため、生徒本人よりも大人への

発信が良い。人と関わっていないと SNS もしない。知ろうとする方法を知らない。

(幸) 保護者や支援者などへの発信を強化し、通信制高校の情報をしてもらおう努力が必要との意見。

3. 2025年度前期活動報告

(箕倉) 2025年度の前期活動について説明。参加者からの質問や意見は特になし。

4. 2026年度学校案内説明

(小原) 2026年度について2025年度の変更点を中心に説明。参加者からの質問や意見は特になし。

5. 全体総括

- ・ 梅田キャンパス開校やゴルフ部全国大会優勝など、学校の変化や生徒の活躍が報告された。
- ・ 外部委員からは、様々な意見を聞いて勉強になった、日ごろから丁寧に関わってもらっていることがわかったという評価。
- ・ 新しいスタイル（コース改編・梅田キャンパス開校など）に変わったことで、友達ができやすくなるなど良い方向に進むことへの期待がある一方で、これまでの「いい意味でのゆるさ」がなくなり、環境の変化に耐えられない生徒が出ることへの懸念も示された。
- ・ 学校に対して、「本当にいい学校に入学できたと思う」「もっと知って欲しい」というエールとともに、多様な生徒に選ばれる学校として、新しい変化の中で学習やコミュニケーションに困難がある生徒がステップアップできるよう、丁寧な関わりを継続し、何が大事なのか進めていってほしいという要望。

6. 閉会の挨拶

(下澤) 委員会でいただいた意見を今後の学校運営に反映していくことを約束し、委員会を閉会。

【今回の議事を踏まえて】

今回の学校関係者評価委員会でいただいた貴重なご意見をもとに、ECC 学園高等学校では、引き続き個々の生徒の学びを支援する体制の強化と保護者への情報提供の拡充に重点的に取り組んでまいります。

1. 学力向上・教育活動の改善

- ・ 学習指導要領に基づくレポートの改訂と合わせ、合理的配慮についても生徒の状況に応じたきめ細やかな指導を検討します。
- ・ スクーリングにおける座学の負担軽減のため、体育や体験的・実験的な授業の充実など、生徒が楽しめるような内容改善を追求します。

2. 生活指導・保護者連携の強化

- ・ 課題提出状況や単位取得に関わる重要な情報について、保護者・生徒にとって分かりやすく、タイムリーに確認できる情報発信・連絡システムの改善を検討します。

- ・ 保護者への情報提供と交流の機会として、保護者会の開催頻度について検討します。

3. 進路指導・渉外活動の充実

- ・ 生徒一人ひとりに「進路がある」ことを伝えられるよう、進路指導の充実や職場体験等の連携を通じて、進路を考える機会と支援を早期から提供します。
- ・ 通信制高校の認知度向上のため、生徒の親や支援者など「大人」に向けた学校情報の発信を強化します。

以上